

ランドスケープデザインの考え方

●整備ポイント

本外構は、約 27,000 m²の広大な面積のため、整備に必要なコスト面が懸念されます。そのため、昨今の物価上昇を踏まえつつ、コストを効果的に抑えるために、**全体をまんべんなく整備するのではなく**、国道や利用者通路、建物周りなど、緑化景観や使い勝手な

どに配慮するエリアは「**①しっかり創りこむ**」、広場のように、緑の中に入って気軽に楽しむ場所は「**②簡易な整備**」、人の出入りが少ないエリアは「**③既存のまま**」など、利用ニーズに応じた段階的な整備計画とし、**コスト抑制と美観の両立**を目指します。



●段階的整備イメージ

①しっかり創りこむ	②簡易な整備	③既存のまま
<ul style="list-style-type: none">・高木、中木・地被類 + 低木・浅間石入り土間コン・土間コン・インターロッキング・アスファルト	<ul style="list-style-type: none">・種子吹付※芝など 3 種混合・砂利敷き・木チップ	<ul style="list-style-type: none">・下草除去
整備範囲の比率 【5 割】	【4 割】	【1 割】

●既存樹木の活用

敷地内にある既存樹木は、可能な限り残し、緑化づくりに生かします。建設上、撤去がやむを得ない樹木については、移植も検討します。また、老木や倒木の恐れのある樹木、病害、光量不足などの樹木については、樹木医の診断に基づき撤去いたします。



○枝垂桜（活用）



○どんぐりの木（移植候補）

●軽井沢の植物を中心とした緑化計画

軽井沢町植物園の園長、植生学博士のアドバイスをもとに、在来種・固有種を中心とした、軽井沢らしい風景を創出します。



●生物多様性を大切にしたランドスケープ

野鳥が運んできた種子が芽生え、手入れした草花に混在し共存していく、生物多様性を大切にしたランドスケープとします。



●時間をかけて風景をつくる

竣工した時が「完成」でなく、気候風土を反映しながら永続的に変化・成長し続ける風景を創出します。



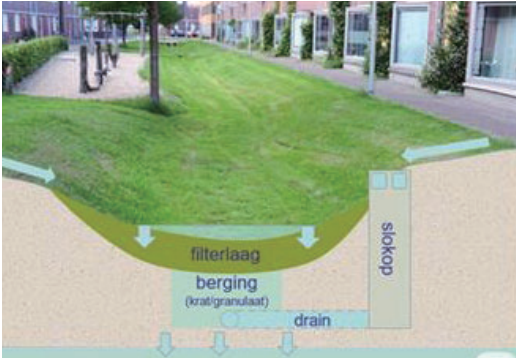
●ワークショップ型の緑化整備

あえて未整備の範囲を計画し、地域の子どもたちや住民を巻き込んだワークショップ型の緑化整備を検討します。



●自然の調整池（レインガーデン）

雨水全浸透に対応するための高価な貯水桝は計画せず、雨水を一時的にためる調整池を検討します。



講堂

- 300 人程度（約 350 ㎡）が観覧可能
- ロールバックチェアを導入し、平土間からひな壇席まで多用途に利用可能
- 天井には吊りバトンを複数本設置し、様々なイベントに対応
- 隣接して、舞台控や音楽スタジオを併設
- ガラスを大きく開放できる仕様とし、イベント時には「ハーモニーひろば①」との一体利用が可能

ハーモニーのえんがわ

- 公民館エリアの共用空間
- 住民活動について、パネル展示や作品展示を通して情報を発信
- 大きなイベント時は講義室と一体利用できるなど、多様な使い方が可能
- 窓口に向かう途中に、様々な住民活動にふれることができる

講義室

- 80 名程度（約 200 ㎡）が利用可能
- 扉やガラスを大きく開放できる仕様とし、イベント時には「ハーモニーのえんがわ」や「ハーモニーひろば②」との一体利用が可能

ハーモニーひろば①

- 掘削残土を利用し、半円の築山を計画
- 適度に囲まれたひろばとし、講堂と一体利用しやすい計画
- 築山が観覧席となり、野外イベント時の一体感が生まれやすい

ハーモニーひろば②

- 南側 1 階出入口の前庭
- 向かいには一般駐車場、町内循環バス停留所を設置
- イベント時にはキッチンカーなどが乗り入れられる計画

